

地域で支える・地域で創る「地域縁側づくり」～誰もが地域の一員～ 多世代交流の場が地域力アップをめざす

☞ 取り組み内容のポイント ☞ 地域高齢者の交流促進・日々の生活の活性化をめざす“居場所づくり”や“役割づくり”の提供を、乳幼児親子の子育て支援と共存して行っていく。住民によるさりげない「助け合い・支え合い」の輪が地域に広がり、地域コミュニティの再生を図る。

岐阜県

社会福祉法人

和光会

〒501-0446 岐阜県本巣郡北方町柱本3丁目90番地

TEL: 058-324-3833 FAX: 058-324-3343

法人創設年

平成10(1998)年

法人実施事業

① 経営施設数合計: 21 事業

② 経営施設・事業【種別毎の数】:

特別養護老人ホーム…2、ケアハウス…1、住宅型優良老人ホーム…2、認知症対応型共同生活介護…1、短期入所生活介護…1、小規模多機能型居宅介護…1、認知症対応型通所介護…2、夜間対応型訪問介護…1、生活介護事業所…1、地域包括支援センター…1、児童発達支援事業所・放課後デイサービス…1、保育園…2、一時預かり事業…2、児童館…2 (岐阜県指定管理)

法人の理念・経営方針

法人理念

[生涯支援サービスの提供] 地域のみなさまが生涯を通じ、安心して暮らせる健康的な社会を実現するため、子育て・保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供します。

[個人の尊重と共感] 一人ひとりの思いを尊重・共感し、生きる能力を育み、生きがいのある人生を送るため、支援を行います。

[継続的改善とたゆまぬ発展] 意欲と知恵と工夫により、働きや

すい環境と教育の機会を進め、サービスの継続的改善と新たな開発により、たゆまぬ発展をめざします。

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

① 定款への記載: 記載していない

② 事業報告・計画への記載: 記載している

取り組みを実施している施設の概要

【施設名】: ファミリーコート北方

【施設種別及び利用定員】: 有料老人ホーム 定員 14 名

活動内容

◇ 活動開始年: 委託事業開始 (平成24(2012)年1月4日)

「憩いの場」ひなたぼっこくらぶ開所 (平成24(2012)年4月16日)

◇ 活動の対象者: 地域住民・地域高齢者・未就学児親子 (乳幼児・幼稚園・保育園) 小学生

◇ 活動の頻度・時間

開館日: 毎週月曜日～土曜日

9:00～お帰りチャイムまで (7時間半～9時間)

活動実施の背景、実施にいたった理由

事業実施地域は、新築一戸建て・アパートが年々建ち並び、人口増加率も著しい反面、人の出入りも激しい地域である。自宅に閉じこもり、育児不安や孤独にさいなまれている子育て家庭の現況が、育児放棄 (幼児虐待) に繋がるケースも増加していた。

平成22(2010)年度・23(2011)年度と2年間、法人施設であるグループホームの一室において「子育て支援施設」を週6日開館し、乳幼児親子と認知症高齢者・施設職員・地域の方々が日常的に自然な形で関われることを大切に活動を行ってきた。行き場のない乳幼児親子の大切な居場所 (毎月延べ人数: 500人 一日平均12組) となり、多世代交流が乳幼児親子にも高齢者にも心の平穏をもたらす事を実感し、事業継続の必要性和施設入居者の交流範囲が施設内から施設外へと広がっていくように新たな事業、岐阜県の「県民の参画と協働による地域づくり支援事業」の委託を受け「ひなたぼっこくらぶ」を平成24(2012)年4月より近隣で開始した。身近な集会場をいつでも・誰もが気軽に遊びに来れる地域みんなの“たまり場”として活動を展開した。

実施内容

530世帯が住む県営住宅は、住民の高齢化の進行・独居高齢者 (約20%) や高齢者世帯数も増加している。反面、若い世代の流入・流出も激しく、隣人や団地自治会・町との連携や繋がりが年々希薄となっている。地域コミュニティ (小中学校校区) において、地域の住民や各種団体が地域の課題を認識し、より良い地域づくりに向けた組織的に地域課題を解決していくプロセスを重要視した。企画運営委員会や地域住民によるアンケートの実施・ワークショップの開催・かわら版の発行により、検討内容や事業スケジュールを地域の方々の共通認識の上、解決に向け一緒に取り組んで行けるように話し合いの場を持ち進めている。主な活動は以下の通りである。

① ひなたぼっこカフェ

コーヒー・紅茶・ジュース等を1品50円で提供。新聞や雑誌、血圧計、将棋、共同募金会からのマッサージチェアを設置

② はつらつディ

毎週水曜日に、健康体操や脳トレ・チャレンジ教室 (折り紙・編み物等) を開催。“楽しく・笑いながら・

無理をしないで”をモットーに活動している。

③健康教室の開催

介護予防教室・認知症講座・栄養教室（手作り弁当を 500 円で提供）など、法人の専門職との連携により、活動の幅を広げている。

④ましゅまるday

毎週金曜日に、乳幼児親子を対象としたふれあい遊び・リズム遊び・手作りおもちゃ等を提供している。あわせて子育て相談も実施。

⑤ひなたぼっこ広場

ふれあい交流行事として、季節行事や誕生日会・遠足・おやつ作りなどを一緒に開催。

「子育て支援施設」においても「ひなたぼっこくらぶ」においても、活動は単発・一時的なものでなく、自然な形で継続的にみんなが関われることを最優先している。“顔なじみ”の関係の構築が、世代を超えて誰もが・気軽に・楽しく交われる地域交流の拠点となることをめざしている。

◎活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

法人は、設立以来、積極的に地域行事に参加し、地域に密着した施設をめざしてきた。

グループホームで2年間「子育て支援施設」を開館したことで、老人福祉施設を乳幼児親子にも理解していただけた。乳幼児親子同士の交流が、母親の精神面の支えや父親・祖父母の育児参加を促す事ができた。高齢者の方に対して、言葉を交わす事や遊び相手になってもらうことで自然と「思いやり」の心が芽生え、「怖い」「汚い」という高齢者に対するイメージから敬遠されていた乳幼児親子が、入居者の優しさに触れ、多世代交流を自分達親子にとってもとても良いことだと言われている。継続して「子育て支援施設」利用者が遊びに来てくださり、新たな子育て家庭の参加を促している。

自宅に閉じこもりがちな地域高齢者にとっても、身近な場所にみんなで集まれる場所ができたことで、日々の単調な生活に活力を与えているようである。“笑い合える仲間”の輪が広がり、「自分にできる事があれば誰かの役に立ちたい」という思いが芽生え、現在たくさんの活動の手助けをいただいている。緑のカーテ

ン（ゴーヤ）の世話、花の水やり、布で乳幼児のおもちゃを作ってくださる方、カメラ持参で活動を撮影してくださる方、乳幼児の遊び相手や見守り、チャレンジ教室の先生・・・等を自らかって出てください。特に「手作り地域夏祭りを行いたい」という申し出に高齢者の方のみでなく、障害のある方、小学生や子ども会のお母さんなどたくさんの方が準備から当日のお手伝いを手助けしていただいている。「役割ができたこと」が「喜び・生きがい」を生み、笑顔が絶えない活動の場となっている。

現在、利用者延べ人数は、毎月平均 900 名余りとなり、一日の利用者数は 35 名程となっている。

◎今後の展開

地域の方の中に少しずつ芽生えてきた“地域の為に役に立ちたい”という意識が、“助け合い・支え合い”活動に繋がるように期待をしている。まだまだ来館する事に敬遠・遠慮・戸惑っていらっしゃる地域高齢者や、引越してきて間がない子育て家庭に、一度でも来館していただけるように、地域の方々から声かけしていただき、家に閉じこもりがちな人や地域から孤立する人が一人でも少なくなるように働きかけていきたい。「ひなたぼっこくらぶ」の活動を、引き続き自分達で継続していただき、「高齢者の見守り」や「子育て家庭の支援」を近い将来組織的に取り組んでいけるように今後の展開を広げていきたい。

◎主な経費や財源及び人員等

※年間あたり			
主な経費（支出）	経費概算額	主な財源（収入）	財源概算額
消耗品費	744,500 円	委託費	969,000 円
謝金	155,000 円	参加費	320,500 円
備品	190,000 円		
水道光熱費他	200,000 円		
<合計>	1,289,500 円	<合計>	1,289,500 円

- ・取り組みに係わった職員数〔21〕名
（職種等：保育士、介護福祉士、理学療法士、栄養士、看護師 等）
- ・取り組みを実施している施設の事業規模（平成 23（2011）年度決算の事業活動収入）〔28,327〕千円
※法人全体の事業規模（同上）〔1,343,482〕千円



毎週水曜日のはつらつデイ
（健康体操）



栄養教室（毎月 1 回）



高齢者と乳幼児とのふれあい



ふれあい交流行事
（お菓子つりゲーム）